

第6回全国大会の成功のために

きたる8月7日から3日間、別項のように枝教研の第6回全国大会を開きます。枝教研常任委員会では、5月の準備集會に河野義頭常任に青森まで行っていただき、東北の人々と話し合いをすすめて、また常任委でも討論を重ねて準備をすすめています。この準備の過程で明らかになってきた若干の問題を報告して、大会を成功させるために会員各位のご協力を得たいと思います。

①枝教研の会員は、いまや260名を越えています。国民の教育要求にこたえようとする民間教育研究団体としてはまだまだ小さな団体ともいえるわけですが、今後のいっそうの発展を期するためにも、その踏み台となるように今年の大会を成功させなければならないと考えています。

②技術教育をめぐる国民の教育要求は極めて多面的であり、したがってまた、枝教研に寄せられる期待と要望も多様です。こうした実情を反映して、昨年の大会では会期の途中で2つの分科会に分かれて討論をすすめたのですが、今年も、みのある研究討論をすすめるために、全体討論のほか、小中学校の技術教育を中心とした分科会と、高校の技術教育および職業訓練の問題を扱う分科会とを設ける計画です。

③準備の過程で用意され、あるいは期待されている報告のテーマと報告者にはつぎのようなものがあります。

1. 機械と力(中) 高橋豪一(宮城)
2. 力率の授業(高) 平山 豊(青森)

3. 熱機関の効率(中) 東 正彦(岩手)
4. 排気ガスの授業(中) 外崎文夫(青森)
5. 木材加工(中) 内田(宮城)
6. 総合制高校をめざして(高) (埼玉・愛知)
6. 鉄鋼産業における職業訓練 依田有弘(東京)

もちろん、以上のほかにたくさんの授業実践やたかひの経験が報告されることを期待します。報告書は100部は用意して下さった方が安全です(従来、足りなくなるきらいがありましたから)。

④中学校の技術科については、教科書批判や実践報告の討論のほか、いわゆる自主編成テキストの問題を独自の重要なテーマとしてとりあげる必要があると考えています。本号の大谷氏の投稿はそのための一つの問題提起という意味をもっています。

⑤中・高・職業訓練を問わず、各方面で総合技術教育にたいする関心が高まっていることは、枝教研主催のシンポジウムへの関心の高さにも示されたところです。そして、総合技術教育と私たちの民主主義的な教育運動との

本号の内容

第6回全国大会の成功のために
 自主編成テキストづくりにとり組もう
 自主編成テキストの作製をめぐる諸問題
 東京サークル例会報告
 新入会員紹介
 転居・転勤したらすぐ通知
 第6回全国大会へのおさそい

かかわりを明らかにすることもまた、私たち
技教研に課された重要な光栄ある任務である
と考えます。会員のなかにはこういう問題に
は関心がないというような人もあるというこ
とも含めて、深く討論したいと思っています。
⑥日教組が委嘱している教育制度委員会の第
3次報告(7月発表)は、職業訓練の発展に
についても言及する予定とされています。とこ

ろで、この職業訓練の問題を真正面から扱う
ことができるのは、数ある民間教育団体のう
ちでもいまのところ私達技教研だけです。私
たちはこの問題もとりあげたいと思います。

以上のどれをとってもかんたんな問題は一
つありません。英知をしぼって大会を成功
させるために、絶大なご協力を期待します。

(佐々木享)

主 自 編 成 テ キ ス ト づ く り に と り 組 も う

現在、各民間教育研究団体で教科書批判と
ともに、教育課程の自主編成運動、自主テ
キストづくりが活発に進められている。自主テ
キストは、数学教育協議会の研究の蓄積とし
て出版された、遠山啓監修『わかるさんすう』
や、教科研国語部会や明星学園編の『にっぽ
んご』のように、出版社からの万単位で出さ
れているものから、教師のガリ切りの授業書
的なものまで中広く無数におこなわれている。

技術科教育(中学校)における自主テキ
ストで、民間教育研究団体から出されているも
のは、産業教育研究連盟出版の『機械の学習
(1)』、『電気の学習1』、『製図の学習』、
『技術史の学習』である。その他では、技教
研や産教連の大会に報告されている個人研究
や、学校内研究、地域サークルでの協力研究
によるものである。これらのテキストの中にも
、「岩手技術教育を語る会」や、同志社中
学校、和光学園のように、活版で印刷され、
集団的に検証されたものもある。しかし、技
教研としてのテキストづくりはおこなわれて
おらず、他の民間教育研究団体の実績や、現
場教師が求めている要求に照してみると、遅
れているといわざるを得まい。

技教研常任委員会と東京サークルでは、こ
うした認識に立ち、教育内容の自主編成運動
の結実とも言える自主編成テキストづくりに
取り組む必要があるとの立場から討論を始め
た。その討論の中で明らかにされた自主テキ

ストをつくる必要性について私の意見を含め
てのべてみたい。

必要性は、現在の情勢や運動の前進、現場
の様子、作業をすすめる自主的力量の検討な
どの観点から考えてみる必要がある。

① 今や「高度成長政策」が破産したこと
は明らかであり教育問題でも、深刻な矛盾が
吹き出している。これらの情勢の中で、多く
の国民は政治の革新を望んでいる。こうした
情勢のもとで、憲法・教育基本法の精神にの
っとり、平和と民主主義を基調として国民の
要求にこたえる教育方針、教育内容を準備す
ることはさしせまった課題である。労働と生
産を結合し、子供の全面発達をめざす重要な
教科としての技術教育の中味を国民に広く宣
伝していくことがますます必要となってきた
。自主編成テキストは、これらの任務を
遂行していく上での重要な役割を果すこと
になる。現に、前述した『わかるさんすう』
や『にっぽんご』などは、父母の中でも広く
学習会が組織されており、東京のA小学校な
どでは父母が学習をし、教師に働きかけて授
業をやらせている。

② 中学校技術科の教科書は、1963年の
「義務教育諸学校の教科用図書は無償措置に
関する法律」により「広地域採択」制度が強
行されるなど国家統制が強められた結果とし
て、年々教科書会社が減り、現在は実教出版
と開隆堂出版の2社となった。そのため、ま